

無量壽經優婆提舍願生偈

書下文

## 凡例

- (一) 底本は義山校本（『浄土宗全書』第一卷所収『往生論註』二卷）とした。
- (二) 脚注部分の対校は次の各諸版本によった。
- |              |    |    |
|--------------|----|----|
| ○寛永六年版（一六二九） | —— | A版 |
| ○慶安二年版（一六四九） | —— | B版 |
| ○寛文九年版（一六六九） | —— | C版 |
- (三) 漢字表記は基本的には常用漢字に改めた。

無量寿経優婆提舍願生偈

婆敷般頭菩薩造  
後魏菩提流支訳

世尊 我れ一心に

尽十方無礙光如來に

歸命したてまつり

安樂國に生ぜん<sup>①</sup>と願ず

我れ修多羅の眞実功德相に依て

願偈を説て<sup>(一)</sup>総持して<sup>②</sup>

仏教と相應す<sup>③</sup>

彼の世界の相を觀するに

(一) A・B・C版 礎↑号

① A版 願わくは安樂國  
に生ぜん

(二) A・B・C版 総↓摺  
② B版 願偈の総持を説

て  
C版 願偈の総持を説く  
③ A・B・C版 相應せ  
ん

三界の道に勝過せり

究竟して虚空の如く

広大にして辺際無し

正道の大慈悲④

出世の善根より生ず

浄光明 満足すること⑤

鏡と日月輪との如し

諸の珍宝性を備て⑥

妙 莊嚴を具足せり

無垢の光炎熾に⑦

明浄にして世間を曜す⑧

② A・B版 虚↓虚

④ A・B・C版 大慈悲  
は

⑤ A版 満足して

⑥ B・C版 珍宝の性  
(A版訓読を施さず)

④ A・B・C版 妙↓妙

⑦ A・B・C版 無垢の  
光炎熾

⑧ A版 明浄世間を曜す



宝性功德艸<sup>(五)</sup> ⑨ 柔軟にして<sup>(六)</sup>

左右に旋れり<sup>(七)</sup> ⑩

触る者の勝樂を生ずること

迦旃鄰陀に過たり

宝華千万種あり<sup>(八)</sup> ⑪

池流泉に弥覆せり

微風 華葉を動せば<sup>(九)</sup> ⑫

交錯して光乱転す

宮殿諸の楼閣<sup>(十)</sup>

十方を観るに無礙なり<sup>(十一)</sup> ⑬

雑樹に異光の色あり<sup>(十二)</sup> ⑭

宝欄徧徧く围绕せり<sup>(十三)</sup>

(五) A・B・C版 艸↓草

⑨ A・B・C版 宝性功

徳草は

(六) A版 軟↓濡

⑩ A版 左右に旋る

(七) A・B・C版 鄰↓隣

⑪ A・B・C版 宝華千

万種にして

⑫ A・B・C版 華葉を

動すに

⑬ A・B・C版 観する

こと

(八) A・B・C版 礎↓阜

⑭ A版 光の色を異にし

て

(九) A・B・C版 徧↓遍

無量の宝 交絡して<sup>⑮</sup>

羅網虚空に徧し<sup>⑯</sup>

種種の鈴響を発して<sup>⑰</sup>

妙法音を宣吐す<sup>⑱</sup>

華衣を雨して莊嚴とし<sup>⑲</sup>

無量の香 普く熏す<sup>⑳</sup>

仏慧 明浄の日<sup>㉑</sup>

世の癡闇の冥を除く<sup>㉒</sup>

梵声 悟しむること深遠<sup>㉓</sup>

微妙にして十方に聞ふ<sup>㉔</sup>

正覚阿彌陀<sup>㉕</sup>

法王善く住持したまへり<sup>㉖</sup>

⑮ A・B版 訓読を施さず

⑯ C版 虚↓虚

⑰ A・B・C版 徧↓徧

⑱ A版 響↓響

⑲ A版 発↓發

⑳ A・B・C版 妙↓妙

㉑ A版 華衣の莊嚴を雨て、B・C版 華衣を雨して莊嚴し

㉒ A版 熏↓熏

㉓ B・C版 熏↓熏

㉔ A版 慧↓恵

㉕ A版 世の癡闇冥を除く

㉖ A・B・C版 梵声の悟り深遠なり

⑲ A・B・C版 正覚の阿彌陀

㉖ A版 住持したまへり

如来淨華の衆<sup>㉑</sup>

正覚の華より化生す<sup>㉒</sup>

仏法味を愛樂すると<sup>㉓</sup>

禪三昧食と為す<sup>㉔</sup>

永く身心の悩を離て

樂を受ること常に間無し

大乘善根界は<sup>㉕</sup>

等して譏嫌の名も無し<sup>㉖</sup>

女人及び根欠と

二乗との種生せず

衆生の願樂するところ

㉑ A・B・C版 淨華の衆は

㉒ A版 正覚の化生すとす

㉓ A・B・C版 妙↓妙

㉔ B・C版 仏法の味を愛樂して

㉕ A版 仏法の味と禪三昧とを愛樂して食と為す。

㉖ A・B版 大乘善根の界にはC版 大乘善根界には

㉗ A版 譏嫌の名無B・

㉘ C版、譏嫌の名も無く

㉙ B・C版 缺↓缺

㉚ A版 女人と及び根欠

㉛ とB・C版女人及び根

缺

一切能く満足す

是の故に彼の

阿彌陀仏国に生ぜんと願す

無量の大宝王ある

微妙の浄華台あり

相好の光一尋にして

色像羣生に超たり

如来微妙の声

梵響十方に聞

地水火風虚空の

分別無に同じ

28 A・B・C版 阿彌陀

仏の国に

29 A版 無量の大宝王

B・C版無量の大宝王

は

30 A・B・C版 妙↓妙

A版 微妙の浄華台に

まします

31 A・B・C版 妙↓妙

A版 響↓響

32 A版 十方に聞ゆB・

C版十方に聞

33 C版虚↓虚

A版 地水火風虚空の

分別無きに同なり。

B・C版地水火風虚空

に同じて分別したまう

こと無し

天人不動の衆<sup>㉓</sup>  
清淨の智海より生ず

須弥山王の如く<sup>(のう)</sup>  
勝妙にして過ぐる者無し<sup>㉔</sup>

天人丈夫の衆<sup>しゆ</sup>  
恭敬し繞て瞻仰す<sup>㉕</sup>

仏の本願力を観ずるに  
遇て空く過ぐる者無し  
能く速かに功德  
大宝海を満足せしむ

安楽国は清淨にして

㉓ A・B・C版 天人不動の衆は

㉔ (㍷) A・B・C版 妙↓妙  
B・C版 過たる者無し

㉕ (㍷) A版 繞↓達  
A版 達て瞻仰したてまつる  
B・C版 繞り瞻仰す

つね ひくりん てん  
常に無垢輪を転ず

けぶつ ほまつ ひ  
化仏菩薩の日は

しゆみ じゆうじ  
須弥の住持するが如し<sup>36</sup>

むく しょうこん ひかり  
無垢莊嚴の光

いちねん およびいちじ  
一念及一時に<sup>37</sup>

あまねく しよぶつ え てら  
普、諸仏の会を照し

もろもろ ぐんじょう りやく  
諸の羣生を利益す

てん らくけ え  
天の楽華衣

みょうこうとう あゆみら  
妙香等を雨して供養し<sup>38</sup>

しよぶつ ぐどく ざん  
諸仏の功德を讚するに<sup>40</sup>

ふんべつ こころあ  
分別の心有ること無し

なんぢ せかい  
何等の世界なりとも

ぶつほうくどく たからな  
仏法功德の宝無きには

<sup>36</sup> B・C版 須弥住持するが如し

<sup>37</sup> A・B版 一念及び一時に

<sup>38</sup> A・B・C版 天楽華衣妙香等を雨して

<sup>40</sup> A版 供養する  
B・C版 諸仏の功德を讚すれども

われ願は皆往生して  
仏法を示すこと仏の如ならん④

我れ論を作り偈を説く

願は彌陀仏を見たてまつり

普く諸の衆生と共に

安楽国に往生せん

無量寿修多羅の章句、我れ偈誦を以て総説し竟ぬ

論に曰く、此願偈には何なる義をか明す。彼の安楽世界を觀じて、阿彌陀如来  
を見たてまつり、彼の国に生ぜんと願することを示現するが故に。云何が觀じ、  
云何が信心を生ずる。若し善男子善女人、五念門を修して行成就すれば、畢  
竟して安楽国土に生じて阿彌陀仏を見たてまつることを得。

何等か五念門なる。一には禮拜門、二には讚嘆門、三には作願門、四には觀察  
門、五には廻向門なり

④ A・B・C版 我れ皆  
往生して仏法を示すこ  
と 仏の如くならんと  
願す

④ A・B版 総↓惣C版  
総↓惣

① A版 此の願偈には何  
義を明すや

② A版 阿彌陀如来を見  
たてまつらんと

① A・B・C版 回↓廻  
③ 削除

云何が礼拝する、身業をもて阿彌陀如来応正徧知を礼拝したてまつる。彼国に生ぜんと云う意を為が故に。

云何が讚嘆する、口業をもて讚歎したてまつる。彼の如来の名を称するに、彼の如来の光明智相の如く、彼の名義の如く、如実に修行して相應せんと欲するが故に。

云何が作願する、心に常に作願し、一心に専ら畢竟じて安楽国土に生ぜんと念ず。如実に奢摩他を修行せんと欲するが故に。

云何が観察する、智慧をもて観察す。正念に彼を觀じて、如実に毗婆舍那を修行せんと欲するが故に。觀察に三種有り。何等か三種なる。一には彼仏国土の莊嚴功德を觀察し、二には阿彌陀仏莊嚴功德を觀察し、三には彼の諸菩薩の莊嚴功德を觀察す。

云何が廻向する、一切苦惱の衆生を捨てず、心に常に作願し廻向するを首と為して、大悲心を成就することをを得る故がに。

云何が彼の仏の国土の莊嚴功德を觀察する。彼の仏の国土の莊嚴功德は不可思議力を成就したまへるが故に、彼の摩尼如意宝性の如く、相性相似相對の法なるが故に。彼仏国土の莊嚴功德成就を觀察すとは十七種あり。応に知るべし。

④ A版 云何礼拝なるや  
A・B・C版 徧↓遍  
⑤ A版 礼拝したてまつ

⑥ A版 讚嘆す  
A版 称し  
⑦ A・B・C版 実の如く修行し  
⑧ A・B・C版 実の如く修行し

⑨ A・B・C版 専念して畢竟じて安楽国土に往生し、実の如く奢摩他を修行せん  
⑩(=) B・C版 慧↓恵  
A版 觀察して正しく彼を念觀す  
B・C版 慧↓恵  
B・C版 觀察し正念に彼を觀ず  
⑪ A・B・C版 実の如く

⑫ B・C版 何等をか三種とす  
⑬ B・C版 捨てずして  
A版 作願して  
⑭ A・B・C版 廻向を  
⑮ B・C版 彼の仏の国土  
⑯ A・B・C版 性相の二字なし  
⑰ B・C版 彼の仏の国土の莊嚴功德成就を觀察すと云



何等なんらか十七じゅうしちなる。<sup>⑬</sup>

一には莊嚴しょうごん清淨じやうじやうく功德成就とくじやうじゆ

二には莊嚴ふたつ量りやう功德成就

三には莊嚴みつ性しやう功德成就

四には莊嚴よつ形ぎやう相さう功德成就

五には莊嚴いつつ種種しゆじゆじ事じ功德成就

六には莊嚴むつ妙みやう色しき功德成就<sup>(五)</sup>

七には莊嚴ななつ觸しよく功德成就

八には莊嚴やつ三さん種じゆ功德成就

九には莊嚴ここのつ雨う功德成就

十には莊嚴とら光明こうみやう功德成就

十一には莊嚴じゆういち妙みやう声しやう功德成就<sup>(六)</sup>

十二には莊嚴じゆうに主しゆ功德成就

十三には莊嚴じゆうさん眷属けんぞく功德成就

十四には莊嚴じゆうし受用じゆう功德成就

十五には莊嚴じゆうご無諸難むしよなん功德成就

⑬

A版 何等か十七とす

B・C版 何等をか十七

とす

(五)・(六)

A・B・C版 妙↓

妙

十六には莊嚴大義門功德成就

十七には莊嚴一切所求満足功德成就なり。

莊嚴清淨功德成就とは、偈に觀彼世界相勝過三界道と言へるが故に。

莊嚴量功德成就とは、偈に究竟(七)虚空广大无边際と言へるが故に。

莊嚴性功德成就とは、偈に正道大慈悲出世善根生と言へるが故に。

莊嚴形相功德成就とは、偈に淨光明満足如鏡日月輪と言へるが故に。

莊嚴種種功德成就とは、偈に備諸珍宝性具足(八)莊嚴と言へるが故に。

莊嚴妙色功德成就とは、偈に無垢光炎熾明淨曜世間と言へるが故に。

莊嚴触功德成就とは、偈に宝性功德草柔輦左右旋(九)触者生勝樂過迦旃

鄰陀と言へるが故に。

莊嚴三種功德成就とは三種の事有り。応に知るべし。何等か三種なる。一には

水、二には地、三には虚空なり。莊嚴水功德成就とは、偈に宝華千種弥覆池流

泉(一)微風動華葉交錯光乱転と言へるが故に。莊嚴地功德成就とは、偈に宮殿諸

楼閣觀十方無礙(二)雜樹異光色宝欄徧(三)毘繞と言へるが故に。莊嚴虚空功德成就

とは、偈に無量宝交絡羅網徧虚空(四)種種鈴發響宣吐妙(五)法音と言へるが

故に。

(七) A・B・C 空竟如虚

空

(八)・(九) A・B・C版 妙↓

妙

(一) A版 輦↓濡

(二) A・B・C版 鄰↓隣

(三) A版 覆↓覆

(四) A・B・C版 矣↓早

(五) A・B・C版 徧↓徧

(六) A・B・C版 繞↓遠

(七) A・B・C版 徧↓徧

(八) A版 發響↓發響

(九) A・B・C版 妙↓妙

莊嚴雨功德成就とは、偈に雨華衣莊嚴無量香普熏と言へるが故に。

莊嚴光明功德成就とは、偈に仏恵明淨日除世礙闇冥と言へるが故に。

莊嚴妙声功德成就とは、偈に梵声悟深遠微妙聞十方と言へるが故に。

莊嚴主功德成就とは、偈に正覺阿彌陀法王善住持と言へるが故に。

莊嚴眷屬功德成就とは、偈に如来淨華衆正覺華化生と言へるが故に。

莊嚴受用功德成就とは、偈に愛樂佛法味禪三昧為食と言へるが故に。

莊嚴無諸難功德成就とは、偈に永離身心悩受樂常無間と言へるが故に。

莊嚴大義門功德成就とは、大乘善根界等無譏嫌名女人及根欠二乘種不生

と言へるが故に。淨土の果報は二種譏嫌の過を離れたり。應に知るべし。一に

は体。二には名なり。体(㊦)に三種有り。一には二乗の人、二には女人、三には諸根

不具の人なり。此の三の過無が故に離体譏嫌と名く。名に亦三種有り。但三の体

無のみに非ず。乃至二乗と女人と諸根不具との三種の名をも聞ざるが故に、離名

譏嫌と名く。等は平等一相なるが故に。

莊嚴一切所求満足功德成就とは、偈に衆生所願樂一切能満足と言へるが故

に。

略して彼の阿彌陀仏の国土の十七種の莊嚴功德成就を説て、如来自身の利益

(㊦) A版 熏↓熏 B・C

版 熏↓熏

(㊦) A版 恵↓慧

(㊦) A版 無↓无

(㊦)・(㊦)・(㊦) A・B・

C版 体↓躰

(㊦) A版 三の過か無が故

に

(㊦) A版 等とは B・C

版 等と言ふは

大功徳力成就と、利益他功徳成就とを示現する故に。彼の無量寿仏国土の莊嚴は第一義諦妙境界相なり。十六句と及び一句と次第に説くこと応に知るべし。

云何が仏の莊嚴功徳成就を觀する。仏の莊嚴功徳成就を觀ずとは、八種の相有り。応に知るべし。何等か八種なる。

- 一には 莊嚴座功徳成就
- 二には 莊嚴身業功徳成就
- 三には 莊嚴口業功徳成就
- 四には 莊嚴心業功徳成就
- 五には 莊嚴大衆功徳成就
- 六には 莊嚴上首功徳成就
- 七には 莊嚴主功徳成就
- 八には 莊嚴不虛作住持功徳成就なり。
- 何れか莊嚴座功徳成就なる。偈に無量大宝王微妙淨華台と言へるが故に。
- 何れか莊嚴身業功徳成就なる。偈に相好光一尋色像超羣生と言へるが故に。
- 何れか莊嚴口業功徳成就なる。偈に如来微妙声梵響聞十方と言へるが故

②① A版 成就す  
 ② A・B・C版 故なり  
 ③ A・B・C版 妙↓妙

② A・B・C版 八種と  
 十

③ A・B・C版 大衆↓  
 衆  
 ③ A版 莊嚴主↓主

②⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪ A・B  
 ・C版 何に者か  
 ③④ A・B・C版  
 妙↓妙

に。

②⑦ 何れか莊嚴心業功德成就なる。偈に同地水火風虛空無分別と言へるが故に。無分別とは分別の心無きが故に。

②⑧ 何れか莊嚴大衆功德成就なる。偈に天人不動衆清淨智海生と言へるが故に。

②⑨ 何れか莊嚴上首功德成就なる。偈に如須弥山王勝妙無過者と言へるが故に。

③④ 何れか莊嚴主功德成就なる。偈に天人丈夫衆恭敬瞻仰と言へるが故に。

③⑤ 何れか不虛作住持功德成就なる。偈に觀仏本願力遇無空過者能令速満足く

徳大宝海と言へるが故に。即ち彼の仏を見たてまつれば、未証淨心の菩薩畢

竟じて平等法身を証することを得て、淨心の菩薩と上地の諸菩薩と畢竟して、

同じく寂滅平等を得るが故に。

略して八句を説て如来の自利利他の功德莊嚴次第成就したまふを示現す。③⑥ 應

に知るべし。

③⑦ 云何が菩薩の莊嚴功德成就を觀察する。菩薩の莊嚴功德成就を觀察すとは、

彼の菩薩を觀するに、四種の正修行功德成就有り。應に知るべし。何者をか

四と為る。

③⑧ 一には、一仏の土に於て身動揺せずして十方に徧し、種種に応化して如実

③④ ③⑤ A版 丈夫↓大夫  
A版 無↓无

③⑥ ③⑦ A版得証して  
A・B・C版 成就し  
たまへることを

③⑧ A版 動↓勸  
A・B・C版 徧↑遍  
A・B・C版 実の如

修行し常に仏事を作す。偈に安楽国清淨常転無垢輪。化仏菩薩日如須弥住持  
と言へるが故に。諸の衆生の淤泥の華を開かしむるが故に。

二には、彼の応化身一切の時に前ならず後ならず、一心一念に大光明を放て  
悉く能く徧く十方世界に至て衆生を教化す。種種方便修行所作、一切衆  
生の苦を滅除するが故に。偈に無垢莊嚴光一念及一時普照諸仏会利益諸  
羣生と言へるが故に。

三には、彼れ一切の世界に於て余無く、諸仏会の大衆を照すに余無く、广大  
無量に供養し恭敬して、諸仏如来の功德を讃嘆す。偈に雨天衆華衣妙香等供  
養讚諸仏功德無有分別心と言へるが故に

四には、彼れ十方一切の世界の三宝無き処に於て、仏法僧宝の功德大海を住  
持し莊嚴して、徧示して解せしめ如実に修行せしむ。偈に何等世界無仏法功德  
宝我願皆往生示仏法如仏と言へるが故に

又向きに説く觀察莊嚴仏土功德成就と、莊嚴仏功德成就と莊嚴菩薩功德  
成就となり。此の三種の成就は、願心をもて莊嚴せり。應に知るべし。略し  
て入一法句を説くが故に。一法句とは謂く清淨句なり。清淨句とは謂く真実  
智慧無為法身なるが故に。此の清淨に二種有り。應に知るべし。何等か二種な

35 A・B・C版 淤泥の華を

36 A版 不前不後にして

36 A版 明↓朋

36 A・B・C版 徧↓遍

37 A版 種種方便し修行して作す所

37 B・C版 種種に方便し修行して作す所は

37 A版 光↓先

38 A・A・C版 彼の

38 A版 照すこと

39 A版 無量にして

40 A・B・C版 妙↓妙

40 A・B・C版 徧↓遍

41 A・B・C版 徧く示して如実の修行を解せしむ

42 削除

43 A版 莊嚴仏土の功德成就と、莊嚴菩薩功德成就とを觀察することを説く。

43 B・C版 智慧↓智慧

④ 一には器世間清淨。二には衆生世間清淨なり。器世間清淨とは、向きに説が如き十七種の莊嚴仏土功德成就なり。是を器世間清淨と名く。衆生世間清淨とは、向きに説が如き八種の莊嚴 仏功德成就と、四種の莊嚴菩薩功德成就となり。是を衆生世間清淨と名く。是如く一法句に二種の清淨の義を撰す。応に知るべし。

是の如く菩薩、奢摩他と毗婆舍那との広略を修行して、柔軟 心を成就すれば如実に広略の諸法を知る。是の如して巧方便廻向を成就す。何に者か菩薩の巧方便廻向なる。菩薩の巧方便廻向とは、謂く礼拝等の五種の修行をもて集むる所の一切の功德善根を説て、自身住持の樂を求めず、一切衆生の苦を抜かんと欲するが故に、一切衆生を撰取して共に同じく彼の安樂 仏國に生ぜんと作願す。是を菩薩の巧方便廻向成就と名く。

菩薩の如く善く廻向成就をすれば、即ち能く三種の菩提門相違の法を遠離す。何等か三種なる。一には智慧門に依て自樂を求めず、我心自身に貪著するを遠離するが故に。二には慈悲門に依て一切衆生の苦を抜て、衆生を安ずること無き。三には方便門に依て一切衆生を憐愍する心、自身を供養し恭敬する心を遠離するが故に。是を三種 菩提門相違の法を遠離すと名く。

- ④ A・B・C版 何等をか二種とす
- ④ A版 莊嚴成就
- ④ A版 向きに十七種莊嚴成就仏土功德成就を説が如し。
- ④ A版 清淨の二字以下二十字を一行あとに配列している。
- ④ A・B・C版 八種の莊嚴
- ④ A版 菩薩功德成、是に就て衆生世間清淨と名く。
- ④ A版 毗婆舍那とを広畧修行して
- ④ A版 軟↓濡
- ④ A・D・C版 実の如く
- ④ A版 廻向なるや
- ④ A・B・C版 修行を以て
- ④ A・B・C版 彼安樂 仏國
- ④ A・B・C版 知て
- ④ A版 即能の二字なし
- ④ B・C版 遠離す
- ④ A・B・C版 何等をか三種とす
- ④ A版 衆生を安ずること無きの心
- ④ B・C版 心を以て
- ④ B・C版 恭敬するの
- ④ A・B・C版 三種の

菩薩是の如く三種 菩提門相違の法を遠離して、三種の随順菩提門の法満足することを得が故に。何等か三種なる。一には無染清浄心、自身の為に諸樂を求めざるを以ての故に。二には安清浄心、一切衆生の苦を抜くを以ての故に。三には樂清浄心、一切衆生をして大菩提を得せしむるを以ての故に、衆生を撰取して彼の国土に生ぜしむるを以ての故に。是を三種 随順菩提門の法満足す名く。応に知るべし。向に説く智慧と慈悲と方便との三種門は、般若を撰取し、般若は方便を撰取す。応に知るべし。向に説く遠離我心不貪著自身と、遠離無安衆生心と、遠離供養恭敬自身心と此の三種の法は、菩提を障る心を遠離する。応に知るべし。向に説く無染清浄心と安清浄心と樂清浄心と、此の三種の心を一処に略して妙 樂勝真心を成就す。応に知るべし。是の如く菩薩智慧 心と、方便心と無障心と勝真心とをもて、能く清浄の仏国土に生ず。應に知るべし。是を菩薩摩訶薩、五種の法門に随順して作す所、意に随て自在に成就すと名く。向に説く所の如し。身業、口業、意業、智業、方便智業は随順の法門なるが故に。

復た五種の門有りて、漸次に五種の功德を成就す。応に知るべし、何れか五門なる。一に近門、二に大会衆門、三に宅門、四に屋門、五に園林遊戯地門な

- ① A・B・C版 何等をか三種とす
- ② A版 生ずるを
- ③ A・B・C版 三種の
- ④ A・B・C版 向に説ける
- ⑤ B・C版 慧↓恵
- ⑥ A版 三種の門は般若を撰す
- ⑦ A版 向に……を説く(……の個所はA・B・C版とも訓読している)
- ⑧ A版 向に……とを説く
- ⑨ B・C版 無染清浄の心と安清浄の心と樂清浄の心と
- ⑩ A・B・C版 此の三種の心は略して一処にして
- ⑪ A・B・C版 慧↓恵
- ⑫ A・B・C版 菩薩の方便心、菩薩の智慧心、菩薩の勝真心、菩薩の無障心、菩薩の勝真心
- ⑬ A版 是を菩薩摩訶薩の、五種の法門随順所作
- ⑭ A・B・C版 向きの所説の如く
- ⑮ C版 漸次、五種の功德を成就す
- ⑯ B・C版 何に者をか五門とす



り。この五種の門は、初めの四種の門は入の功德を成就し、第五の門は出の功德を成就す。入の第一門とは、阿彌陀仏を禮拜したまつり、彼の国に生ぜんと為すを以ての故に、安樂世界に生ずることを得。是れを入第一門と名づく。入の第二門とは、阿彌陀仏を讚嘆したまつり、名義に随順して、如来の名を稱し、如来の光明智相に依つて修行するを以ての故に、大会衆の数に入ることを得。是れを入の第二門と名づく。入の第三門とは、一心専念に彼に生ぜんと作願して、奢摩他寂靜三昧の行を修するを以ての故に、蓮華藏世界に入ることを得。是れを入の第三門と名づく。入の第四門とは、専念に彼の妙莊嚴を觀察して、毗婆舍那を修するを以ての故に、彼の処に到りて種種の法味樂を受用することを得。是れを入の第四門と名づく。出の第五門とは、大慈悲を以て一切の苦惱の衆生を觀察して、応化身を示して生死の園・煩惱の林中に廻入し、遊戲神通をもて教化地に至る。本願力を以て廻向するが故に、是れを出の第五門と名づく。菩薩、入の

76 削除 B版第五門  
 77 削除 B版第五門  
 78 削除 B版第五門  
 79 削除 B版第五門  
 80 削除 B版第五門  
 81 削除 B版第五門  
 82 削除 B版第五門  
 83 削除 B版第五門  
 84 削除 B版第五門  
 85 削除 B版第五門  
 86 削除 B版第五門  
 87 削除 B版第五門  
 88 削除 B版第五門  
 89 削除 B版第五門  
 90 削除 B版第五門  
 91 削除 B版第五門  
 92 削除 B版第五門  
 93 削除 B版第五門  
 94 削除 B版第五門

四種ししゆの門もんをもて自利じりの行成就ぎやうじやうじゆす。応まさに知るべし。菩薩ぼさつ、出しゆつの第五門だいごもんの廻向えこうをも  
 て利益りやくた他の行成就ぎやうじやうじゆす。⑨⑧ 応まさに知るべし。菩薩ぼさつ是ごとの如ごとく五念門ごねんもんの行ぎやうを修しゆして自利利  
 他たして、速すみやかに阿耨多羅三藐三菩提あのくたらさんみやくさんぼだいを成就じやうじゆすることを得うるが故ゆえに。無量寿むりやうじゆ  
 修多羅優婆提舍願生偈しゆたらう(管) ばだいしやがんしやうげ、略りやくして義ぎを解げし竟おわんぬ。

⑨ A版 本願力の廻向を  
 ⑧ 以て、故に菩薩、入四種の  
 門、自利の行成就すと  
 B・C版 菩薩、出の  
 第五門 廻向を以  
 ⑦ A版 菩薩は出第五門  
 廻向利益他の行成就した  
 まへり  
 A版 優↓憂